

令和元年度 第3回下野市社会教育委員会 議事録

- ・ 審議会等名 令和元年度 下野市社会教育委員会
- ・ 日 時 令和2年2月17日（月）午後1時30分～3時30分まで
- ・ 会 場 下野市役所3階 教育委員会室
- ・ 出席者 五月女委員長、花澤副委員長、海老原委員、坂口委員、齋藤委員、青木委員、今村委員、大塩委員、菅井委員、大垣委員、桑島委員
【欠席委員】橋本委員、稲葉委員
(事務局)池澤教育長、手塚生涯学習文化課長、浅香課長補佐、漆原主査、松岡主事
- ・ 公開・非公開の別 (公開 一部公開 非公開)
- ・ 傍聴人 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要)作成年月日 令和2年2月18日

○会議次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議題
 - (1) 教育委員会への提言内容について
提言：地域学校協働活動の具体的取り組みについて
～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～
5. その他
6. 閉会

【協議事項等】

- 1 開会〈手塚課長〉
- 2 委員長あいさつ〈五月女委員長〉

成人式、年輪のつどいへの参加ありがとうございました。現在、各館で公民館まつりが開催中です。事前送付された提言書を基に話し合いを深めていきたいのでよろしくお願いします。
- 3 教育長あいさつ〈池澤教育長〉

生涯学習推進計画を来年度検討していくことになるのでよろしくお願いいたします。
学校運営協議会制度が始まり地域の方々にも学校運営に参画してもらっている。
年々、子どもの数が減少している。学校を適正規模にして新たな学習指導要領に則り、子どもたちのよりよい成長を促したい。
新型コロナウイルスが猛威を奮っている。市としてきちんと対応していく。

4 議 事

(1) 教育委員会への提言内容について

提言：地域学校協働活動の具体的取り組みについて

～地域の教育力の向上と地域における学校との協働体制の在り方について～

- (五月女委員長) 前回会議を受けて事務局で修正した提言書が既に送付されている。主な変更点について事務局に説明を求める。
- (事務局) 前回の提言書からの変更点について説明。
- (五月女委員長) ただいまの説明を受けて何か意見はあるか。
- (坂口委員) P14の提言4「コーディネート機能充実」となっているが「コーディネート機能の充実」ではないか。また P13 [地域] の部分の3段落目のみ丁寧語になっていない。
- (海老原委員) 文中の「一人ひとり」の表記だが、「一人ひとり」なのか「一人一人」なのか。以前は「一人ひとり」だったが、今は文科省からの出てる学習指導要領などは「一人一人」となっている。
- (五月女委員長) 現在の文科省表記である「一人一人」で統一してください。
- (海老原委員) また文中の「子どもたち」の表記だが、P28のみ「子ども達」となっているので修正したい。
- (齋藤委員) レイアウトも工夫し、イラストなども挿入し、全体的にとてもわかりやすい提言となっている。P9のPOINTの部分だが、「支えてくださって」や「いただける」などボランティアを敬おうとする気持ちが伝わってくるが、文章がかえってまわりくどくなっているのもう少し自然な文体にしていいたいと思う。
- (菅井委員) 同じくP9の[公民館・図書館]のところ「地域学校協働活動推進員が学校運営協議会に『必ず』出席し」となっているが、『必ず』をそこまで強調しなくていいと思う。次にPOINTの2段落目「『本市の』生涯学習情報センター」となっているが、『本市の』は削除でいいと思う。また提言書中に「意図的に」という文言が多く出るが個人的に違和感がある。さらに同じ部分の3段落目「校長の『強い』リーダーシップ『の発揮』とともに」とあるが、学校運営協議会が合議制であることから『強い』や『発揮』は不要ではないか。
- (花澤副委員長) この『強い』は意図して入れたと考えられる。ランドデザインや子どもの理想像は校長が持っていなければならないことなので、それを位置付けるための一語なので入れた方がいいと思う。
- (池澤教育長) この文章は委員が校長とともに責任を分かち合って行動していける体制の構築がねらいなので、校長を中心にみんなで進めましょうという意図がメインなので、『強い』は削除してよいと考える。

- (池澤教育長) 既に南河内第二中学校では学校運営協議会が地域学校協働活動推進本部のような動きをとって他の小学校と合同で授業を実施しており非常に理想的である。今後、学校運営協議会を中心に学習ボランティアや放課後学習支援などを組織的に行ってもらえるといい。
- (五月女委員長) それでは『強い』と『の発揮』は削除する。
- (菅井委員) それならば「とともに」ではなく「のもとに」のほうが文章としてよい。
- (大垣委員) P24の[学校]の2段落目、「機を捉えて」となっているが「機会を捉えて」ではないか。もうひとつ、P7の提言3「地域住民の出逢いを『つながりづくり』に高めます。」の『つながりづくり』という言い回しが引っかかる。
- (菅井委員) 私も引っかかったが、それに代わる言葉が見当たらない。
- (事務局) この言葉は文科省の「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)(中教審第212号)」の中で登場する単語となっているので、この文言はこのまま使用していきたい。
- (花澤副委員長) 一般的に耳慣れないので、市民目線からだと疑問が出そうだ。
- (坂口委員) 文中の『つながりづくり』の部分にカギ括弧をつけてはいかがか。
- (全委員) 異議なし。
- (菅井委員) P10[学校]の3段落目「協力を『仰ぎます』」となっているが『求めます』や『要請します』でいいと思う。同じく[公民館・生涯学習情報センター]の「いざという時に『気軽に』立ち寄れる」とあるが、この文脈で『気軽に』はおかしいと思うので『気兼ねなく』の方がいいと思う。P11[学校][地域]の文中で「配布してもらったり、掲示してもらったり」とあるが、文章が長いので「配布や掲示により」でよい。同P「公民館」2段落目『『地域学校協働活動推進』が』となっているが、『地域学校協働活動推進員』ではないか。
- (青木委員) P5の団体名の表記ですが「あめんぼう」が「あめんぼ」になっている。
- (海老原委員) P4文中に「一つひとつ」とあるがこれも先ほどの「一人一人」に従って「一つ一つ」としたい。またP12の最後の行の先頭位置が1マス分左にずれている。ここまで細かい指摘が多くなっているが、内容は前回からの意見を取り入れてもらって、とてもわかりやすく読みやすくなっている。
- (齋藤委員) P9のPOINTの1段落目「グランドデザイン『を』」となっているが『について』とした方が、その後の文章を含めて意味が通じやすくなる。
- (五月女委員長) 言葉の訂正については以上でよいか。
- (菅井委員) まだいくつかある。P12【提言3】「地域住民の出『逢』いを」となっているが、『逢』はこの漢字でいいのか。

- (齋藤委員) 私もそこは引っかかったので漢和辞典で調べたが『逢』と『会』は同じような意味で使うとなっているので、意味的には間違っていないようだが、私は『会』のほうがいいかと思う。
- (菅井委員) 他にも『合』などもあると思うが、一般的な『会』がいいかと思う。
- 同 P の最後の行で「効果的に『地域に』発信します」とあるが『地域に』は削除して「効果的に発信します」で問題ないと思う。また P13 [学校] の 1 段落目「ボランティアに感謝の気持ちを伝える会を開く際は、ボランティア同士の横のつながり『が』築けるような交流の場を『意図的に』設定するようにします」となっているが『が』を『も』としたい。このときのつながりづくりは二次的なものだと思うので『も』で十分だと思う。また先ほども言ったが『意図的に』と書いてしまうと強制する意味合いも出てきてしまうので、明文化はしないほうがよい。もう 1 点は 4 段落目「運動会種目に地域ぐるみで取り組める種目（例：本市が推進しているキンボール等）を設定し、生涯スポーツを通じた住民同士の交流が促進されるように工夫します」とあるが、現在、実際に運動会でこういった種目を取り入れている事例はあるのか。
- (海老原委員) 小規模校では実施している。
- (菅井委員) 私は自治会長もしているなのでその立場からは嬉しいが、学校側にそんな余裕はないのではないかと危惧しているので、この項目は削除でいいのではないか。
- (五月女委員長) 小規模校ではこういった種目を入れないと時間が保たない面がある。
- (花澤副委員長) これから少子化は進むとこういった事例は増えてくると思われるので、先を見据えたときにはこの項目はあってもいいと思う。
- (池澤教育長) 例としてキンボールを挙げたのでそれを意識する部分が強くなっていると思うので、例の部分を削除すればいいのではないか。
- (事務局) この部分の表記は事務局側で工夫する。
- (五月女委員長) 話が戻るが「出逢い」の漢字だが「出あい」とすれば色々な意味にとれるのではないか。
- (今村委員) 提言書中、「出逢い」と「出あい」が混在している部分がある。
- (事務局) 全て「出あい」に統一する。
- (菅井委員) あとは P18 の POINT の中で「『地域の』自治会等でネットワークを持っている人」とあるが『地域の』は削除してよい。また同文中に「シルバー大学」とあるが「シルバー大大学校」が正しい。また P19 の中で「大人同士の「横のつながり」が生まれるように『意図的に仕掛けて』いくことが」とあるが、表現が刺激的かと。『積極的に働き掛けていく』くらいでよいかと思う。同 P [学校] の部分でも「『意図的な』茶話会」という表現があるが、ねらいはわかるが、これも『意図的に』は削除でよい。続いて P21 [学校] 2 段落目「より多くの地域住民を『巻き込

んだ』地域の行事へと」とあるが『巻き込んだ』という表現は、嫌々ながらも強制的にやってもらうという意味に取られかねないので『協力を得た』という表現でよいかと思う。

(花澤副委員長) それなら『参加・協力を得た』という表現であれば『巻き込んだ』という意味を緩和したうえで似たような意味に捉えてもらえるのではないか。

(菅井委員) 同P〔公民館・生涯学習情報センター〕のところで「社会教育指導員」という単語が出てくるが、これはどういった方のことを指すのか。

(事務局) 公民館長・生涯学習情報センターの正職員以外の職員は社会教育指導員である。

(菅井委員) わかりました。続いてP22のPOINTの4段落目「保護者世代の『巻き込み』が」とあるが、ここも『参加』に言い換えたい。

(桑島委員) P5【具体的連携主体の例】のところで「学校V」という表記があるが、「V＝ボランティア」というのは文章の流れで分かるが、あまり一般的な表記ではないと思うので、きちんと表記したほうがよい。またP28「子ども達」という表記は「子どもたち」としたい。

(菅井委員) P26〔学校〕の6段落目に「地域住民が『無償の』ボランティアとなり」という表記があるが、今は有償ボランティアも一般的になってきている。あえて『無償の』という言葉を入れなくてよいのではないか。

(五月女委員長) 昭和時代までは無償ボランティアが多かったが、平成時代になり有償ボランティアが多くなってきているので、ただのボランティアという表記でもよいと思う。

(菅井委員) 同Pの〔地域・保護者〕の2段落目「自治会や育成会単位で子どもを『巻き込んだ』奉仕活動等を企画し」とあるので、『含めた』と言い換えたい。

(大塩委員) 内容で少しわからない点があるので伺いたい。P3の図の中で「地域学校協働活動」が「社会教育」の枠の中で語られているが、これは「学校教育」と「社会教育」の連携で語られるものでどちらかの枠の中に入るものではないと思う。図の出典が文科省なので間違っていないと思うが、どのように理解したらいいのか。

(池澤教育長) 地域学校協働活動は社会教育法の中に位置づけられており、学社連携から学社融合へ、学社融合から地域学校協働活動へ発展したものであるため、社会教育の枠の中に配置されている。この内容を学校教育側から見た図はP6の下都賀教育事務所が作成した「ふれあい学習推進のイメージ図」になってくる。そしてその2つの図で示される概念をまとめて下野市として落とし込んだものがP4の「ふれあい学習の概念（地域とともにある学校づくり）」の図となる。

(大塩委員) わかりました。

(五月女委員長) 他に何かないか。

(全委員) 特になし。

5. その他

(事務局)

令和2年度の生涯学習実施計画を配布させてもらった。これは来年度の市役所各課の生涯学習の取り組みとなるので、後ほど見ていただきたい。

また2022年に栃木県で国体が開催されることもあり、周知を図るための缶バッヂなどの販促グッズを用意したので、お持ち帰りください。

最後に、本日の会議をもって、皆さんの社会教育委員としての任期が満了となる。引き続き、委員を継続していただける方は応募用紙を提出いただきたい。学識経験者の方には引き続き委員をお願いすることもあるのでその際はよろしくお願ひしたい。

6. 閉会